たちばな新聞

水谷山 寶清寺

春のお彼岸

彼岸入り・三月　十七日（金）
彼岸中日・三月　二十日（月）
彼岸明け・三月二十三日（木）

お塔婆は、故人に対する大切なご供養であると同時に、自分自身の功徳を積む行いとしても奨励されています。お彼岸には、ご家族揃って墓参されることをお勧め致します。

※お彼岸の期間中は、墓参用の生花を管理寺務所にてご用意しておりますので、ぜひご利用下さい。

聞法人達の訓　第四十八回

「百人千人なれども　一つ心成れば必ず事を成す」

【異体同心事】

このご遺文は、熱原（静岡県富士市）の農民達が領主の弾圧と対決する（熱原法難）さなか、日蓮聖人が門弟一同に、今こそ固い信仰の結束が大切と促されたお手紙と言われています。

我々は「自分のわがままは当たり前で、他人のわがままは許せない。そればかりか、むしろ自分だけがいつも我慢している。」と思いがちです。**こんな捨てがたい「我」を持った者同士、一息ついて、相手を拝む気持ちで「我」を認め合うことができたら、調和と発展の「大我」が生まれることでしょう。**日常生活の心構えとしたいご遺文です。

絆

昨年十月頃、檀家のご婦人から、こんな相談を受けました。「家族親戚も段々と少なくなり、孫や曾孫がおじいさんやおばあさんのことを知らない・・・。いずれは私も忘れられてしまうのかもしれない・・・。だから、ご先祖から孫・曾孫の代まで庇護してくれる象徴として墓所内にお地蔵様を建立したい、ついては、ご住職にお地蔵様の正面台座に「絆」という文字を揮毫して欲しい」との内容でした。そして昨年末、念願のお地蔵様を建立され、開眼供養もご婦人の家族親戚と共に行いました。本来「絆」の語源は、犬・馬・鷹などの家畜を、通りがかりの立木につないでおくための綱で、しばらみや呪縛、束縛の意味として使われていました。「ほだし」、「ほだす」とも読みます。**人と人との結びつき、支え合いや助け合いを指すようになったのは比較的最近のことです。**例えば、「絆」という文字は、墓石に刻まれたり、楽曲や映画のタイトル、平成二十三年度の今年の漢字にも選ばれたりと、様々なところでよく使われています。世代を問わず「絆」という言葉を求め大切にする人が多くなったと感じます。その背景には、少なからず家庭・近隣・学校・職場などで、自分勝手な主張をしたり、周囲のせいだと責任転嫁したりと、利己的な人が多くなり、人と人との結びつきが希薄になっていることも影響しているのかもしれません。

人と人との「絆」は、願えば自然に出来るものではありません。**人間同士が「強い絆」を築くためには、「人を生かして自分が生きる、自分を生かして人が生きる」という自分自身が強い信念を持ち、努力することが大切**なのではないでしょうか。

人間は、家族関係を中心として人と人との結びつきの中で生きていますが、利己的な人間が多く見られる現代社会で起きるトラブルや事件を、少子化・高齢化・家族形態の変化など、外形的問題として分析することが多いようですが、人と人との結びつき、支え合いや助け合いが何故うまく構築されないのかという視点で、内面的に分析し解決の指針を示す論調は少ないように思われます。

今回、ご婦人がお地蔵様を建立されたことにより、その「家」には新たな「絆」が生まれました。ご先祖様から頂いた「いのち」に感謝し自分自身と向き合い、家族を想い、子孫の幸せを心から願う強い気持ちは、きっとご婦人のご先祖様と子孫たちをつなぐ永遠の灯火となることでしょう。

ご先祖、家族、大切な人との「絆」を次世代に引き継いでもらえるようにする為にも、強い信念と努力が必要不可欠であると思います。

春のお彼岸を機に、家族間でご先祖様のお話をしたりお墓の承継のこと、タブー視されるご自身の葬儀のことなど、次世代を担う子供達と話し合う機会をもってみてはいかがでしょうか。

宝清寺では、引き続き様々なお悩みを受け付けております。お気軽にお電話、ご来寺にてご相談ください。

◆◆◆◆◆◆◆◆

「たちばな新聞」次号で一〇〇号！

宝清寺で年四回（一・三・七・九月）発行している「たちばな新聞」は、平成四年（一九九二年）三月の創刊から平成二九年七月号もって第一〇〇号を迎えます。

平成二年九月二十三日に、先代、宝清寺第二十五世・師父石井前恭・體嶺院日延上人が遷化し、第二十六世の法統を継承し、一周忌を勤めた後の平成四年三月に、仏事に関する記事やお知らせを通してお檀家とのコミュニケーション・こころの交流ができればと願い発刊しました。今日まで二十五年間一度も欠かすことなく発行してこられましたのは、多くの方々の協力と読まれた方から、「お寺の様子や仏事の事が良く分かって助かる」、「法話は悩んでいるときの参考になってありがたい」、「今までの新聞全部取ってありますよ」など、たくさんの温かな励ましのお陰と感謝しています。

次号は記念号として考えておりますが、お檀家の皆様から「たちばな新聞」に対するご意見・ご感想などお寄せいただければ幸いです。ＦＡＸ・メールでも受け付けております。houseiji@ac.auone-net.jp

住職ひと口法話　第四十九回

現代は特に、人と人との結びつきが希薄になっているように思います。人との円満な協力関係は大切です。人間を取り巻く環境の困難さは、我々の時代が特別なのではなく昔からあったもので、人々はいろいろ工夫して切り抜けようとしてきました。「三本の矢」の話は、戦国大名毛利元就が三人の子供、毛利隆元・吉川元春・小早川隆景に、「矢一本なら一人の力でも折ることができるが、三本となったときは、なかなか折れない、このように三人の力を合わせなければならない。」と兄弟の協力・助け合いを教えたものです。現代人は人付き合いが下手なのかも知れません。具体的に、人間関係を改善情を知らないという状況が急激に増えています。**話す**」なるべくこちらから話しかける、日々の些細な意識改革がコミュニケーション能力を改善する。③**「話しを聞く」**一般に話し上手は聞き上手と言います。④**「個人的なことはなるべく一人の時に」**人と一緒にいる時は、相手のことを考えるようにする。⑤**「挨拶をする」**人間関係は挨拶から始まります。相手に無視されてもめげないことです。⑥**「何事も本気で」**全力で取り組めば、熱意が伝わります。⑦**「人を選ばない」**利益だけの友人を作りたがりますが、反対者が理解者であることも多いものです。少し意識して試してみてはいかがでしょうか。

①**「外に出る」**お隣さんの事するための簡単に出来る七つの意識改革を提案します。

日蓮聖人伝

伊豆法難（二）

幕府に諫言したことにより、弘長元年（一二六二）五月、伊豆に配流となってしまった日蓮聖人は、その翌年に『四恩鈔』を著作されました。それによると、この度の法難には「二つの大事」があると仰っています。「一には大いなる悦び、二には大いなる歎き」だそうです。「大いなる悦び」とは、法華経が予言するごとく、この教えを弘めようとする者には、法難に出会うことが記されています。

聖人はまさに法華経を広布する者として、お釈迦様がおっしゃる弘教者であることが証明されたことを悦びと感じられたのです。

第二の「大いなる歎き」では、法華経を信じ弘めようとする者に、害を及ぼす人が現れ、その人が大いなる罪を受けることを歎いております。聖人に、理不尽な行為をした人々に、恨み辛みを言うのではなく、行った行為に深い悲しみを抱いているのでした。

『四恩鈔』の執筆からさほど時を移さずして『教機時国鈔』を著作されています。

「教」とは釈尊（お釈迦様）がお説きになった「教え」のことですが、これは法華経だけでなく、阿含経、華厳経や般若経など多くの経典のことを言います。「機」とは、釈尊の教えを聞く側の心や精神の度合いのことで、「機根」ともいいます。「時」とは、教えをうける「時期」とも言い換えることができます。「国」とはその国土や地域のことを指します。これら四つの状況を仏典から精査したのちに、聖人在世の鎌倉時代とそれ以降が末法の世であることより、人々を救済する「教え、機根、時期、そして国」の状況に適合し最も必要な教えは「法華経」であることを論証されたのです。

日蓮聖人註画讃
伊東左遷の図

春彼岸会

日蓮聖人は、彼岸について『彼岸抄』をお書きになっています。この内容を平易に言いますと、「彼岸には春と秋のそれぞれ七日間がありこの期間は、この世（此岸）から荒波（三途の川）を渡り、浄土（彼岸）に行くために、善行を積みなさい。またこの時期に積む善行は普段の時期よりも大いなる果報を得ます」と述べられています。

（昭和定本『彼岸抄』より　二一四六頁）

普段仏教修行をしていない方も彼岸の期間に「六波羅蜜」という教えを実践すると良いとされています。

「六波羅蜜」とは、①布施、②持戒、③忍辱、④精進、⑤禅定、⑥智慧の修行のことです。

「布施」は、施しをすること。「持戒」は、決まりや約束を守ること。「忍辱」は、辱（はずかし）めに対して堪え忍ぶこと。「精進」は、日々努力を惜しまないこと。「禅定」は、心を常に平静に保つこと。「智慧」は、正しい判断をし、利己的にならないこと。

布施とは、お坊さんに施すだけが布施ではありません。身近な人に、慈愛の心をこめた言葉をかけてあげるだけでも、立派な布施です。この布施のことを「愛語」といいます。

また、他者に慈愛の心をこめた笑顔で接することを「愛（敬）想」といい、これも布施の一つです。

今年のお彼岸は「愛語」「愛想」を心がけ、実践してみてはいかがでしょう。

花まつり

宝清寺では四月八日のお釈迦様の誕生日に、当寺を入れて、八ヵ寺合同で「オリエンテンプリング」（スタンプラリー）を実施しています。

秋川の八ヵ寺を歩いてお参りし、各寺院でスタンプをもらうと、ゴール寺で記念品をプレゼントします。今年のゴール寺院は二ノ宮の玉泉寺です。

桜並木を観ながら、各寺院で甘茶を飲み、ご家族揃ってご参加頂けますよう御案内申し上げます。

宝清寺の草花

カラスノエンドウ

和名は矢筈豌豆（やはずえんどう）と言い、烏野豌豆（からすのえんどう）は一般に定着している名称です。

開花は三月から五月まで、紅紫色の花を付けます。

古代では、エンドウなどと同様に作物として栽培されていたようで、天ぷらとして食べた経験のある方もいるでしょう。「豆さや」を使って草笛を作ったことがある方もいらっしゃるのではないでしょうか。

また鞘（さや）が黒くなると音を立てて爆ぜるのが楽しく、鞘を見つけては触って種を蒔いていました。昔の子供はなんでもおもちゃにしていましたね。

いまは雑草扱いとなり、子供にいじられることもなく、野辺にひっそりと咲き、そよ風に吹かれてたなびいている姿を見かけるだけですが、その姿は昔のままでいます。

墓地料の完納

たちばな墓苑の管理料は前納制となっております。三月末日までにお納め頂きました管理料は、翌年度（四月より翌年三月末日）の墓苑管理費として利用致します。

納付方法には、持参と、ゆうちょ銀行から口座振替（自動引落）の二通りがございます。

今年の口座引落日は、四月二十五日となっております。お手数をおかけ致しますが、残高をご確認下さいますようお願い致します。金額は一万二千円です。

編集後記

新聞表面でもお伝えいたしましたが、平成四年から始まった「たちばな新聞」は次号で百号を迎えます。四半世紀もの間、継続し発行できたことは嬉しく思い、皆様に感謝を申し上げます。以前、バックナンバーの欠番際に、大切に保管されている方々からのご連絡の多いことに驚きました。

今後もより丁寧に情報を発信し、皆様と宝清寺の架け橋となれる新聞作りを心がけていきたいと思っています。

宝清寺の年中行事

三月彼岸中日	彼岸塔婆供養
四月八日	花まつり（灌仏会）
四月八日	オリエンテンプリング
七月十日	お盆供養
七月十七日	施餓鬼法要
九月彼岸中日	彼岸塔婆供養
十月十二日	お会式法要
十二月初旬	お釜締札

日蓮宗の聖日

二月十五日	釈尊涅槃会
二月十六日	宗祖降誕会
四月八日	釈尊降誕会
四月二十八日	立教開宗会
五月十二日	伊豆法難会
五月十七日	身延御入山
七月八日	本尊始顕会
八月二十七日	松葉谷法難会
九月十二日	龍ノ口法難会
九月十八日	池上御入山
十月十三日	宗祖御会式
十一月十一日	小松原法難会

御祈願・御祈祷

開運祈願	商売繁盛
交通安全	良縁成就
安産祈願	厄除星祭
学力増進	方位除け
身体健全	当病平癒

発行：日蓮宗　水谷山宝清寺
住所：〒197-0821　東京都あきる野市小川１０１
電話：042（558）2663
FAX：042（558）2693
インターネット・公式ホームページ
http://www.houseiji.com/
eメールアドレス
houseiji@ac.auone-net.jp

「たちばな新聞」第1号　平成4年3月1日発行
年4回発行（1月、3月、7月、9月）